

一年図書委員
福田 里和 古家 理恵子
白岩 美咲 宇都宮 愛希
垣尾 果歩



旅立ち

立春が過ぎてもうお寒い冬が続く。春の訪れが待ち遠しい毎日です。さて、今日22日は卒業式を迎えています。3年生のみなさんは豊高高校での生活はいかがでしたか。これから受験の方は勉強に精を出してがんばる時期だと思います。皆さんのさらなる活躍を期待しております。1、2年生のみなさんは、新たな学年に向け、勉強や部活動にますます励みましょう。それぞれの目標に向け努力するみなさんを図書室も、本を通してサポートしていきます。

節分とは？

節分とは、各季節の始まりの日の「前日」のことです。「季節を分ける」日です。農作業を行う人にとって季節の変わり目を知るこれが重要です。そのため節分ができました。また、旧暦では、立春が元日、節分は今日という「大晦日」にあたります。

なぜ豆をまくのか？

豆まきには「邪気を追い払い」という意味があります。また、鞍馬山の鬼が出没し都を荒らしたとき炒り豆(大豆)が鬼の目をつぶったという故事伝説にも由来しています。他にも、「魔目(まめ)」を鬼の目に投げつけて鬼を滅する「魔滅」と言う語呂合わせから来ているとも言われています。

豆まきは節分の夕方に炒った大豆をマスに入れて、神棚に供えてからまきます。

オススメの本

『いまさら翼といわれても』(米澤 穂信)
学生時代のほろ苦さや、将来への不安、葛藤が身近な謎とともに綴られていて、余韻にたれる作品です。本書は古典部シリーズ六冊目となる作品で、他のシリーズを知る人にも面白く、活字が苦手な人にも読める一冊です。(2-3 井崎さん)

『カラフル』(森 絵都)
主人公「ほく」は自殺した中学三年生。もう一度人間界がやり直しができるチャンスを手に入れたが、それには条件が...。そして「小林 真」という男の子と人生の再出発を始める。進路選択がこれから人生を大きく変えていく分岐点となる中学生という時代。そんな主人公が目にしていくのは真実の世界。そこからその世界と「カラフル」がどのようにつながっていくのか。(一年図書委員)

鬼とは？

鬼とは、「陰(おん)」「隠(かく)」に由来する言葉です。「陰」「隠」は目に見えない邪気。この世のものと思えないものの、災害や疫病などを鬼の存在だと思われていました。その鬼を追い払う豆まきは、無病息災を祈る行事でした。

9年男が厄年の男性が「鬼は外」と唱えながらまず玄関から外へ「福は内」と唱え家の中へ。

『手紙屋』(喜多川 泰)
「なんのために勉強しているのさうさ?」「なんのために大学に行くんだらう?」あることをきっかけに主人公「和花」は謎の人物「手紙屋」と10通の手紙をやりとりすることになり手紙のやりとりを通じて自分の心に変えていくのか。自分らしく生きたいあなたの明日を変えてくれるはず。「手紙屋」から「未来を拓く10の教訓」が提示される。和花が和花に似ていたのだと自然と和花に結び付けながら夢中になっていた。また今まで気づけなかった物の見方が様々変わって一文一文が勉強になった。(一年図書委員)

『ラタフシ』(羽田 圭介)
高校生でメジャーデビューを果たし、現在は売れないギタリストとして燃えている太郎。大学三年の秋、とりあえず始めの就職活動だが「元有名歌手」などどこにもない。キビシイ現実の中、太郎は内定獲得に向けて走り出していく。(一年図書委員)

卒業に向けて

二月に入ると、特に月日の流れの速さを感じます。卒業すると親元から離れる人も多く寂しくなったり、反面自由になったり、心のゆるみや様々な誘惑について、フラフラと「寸だけ一回だけ」が取り返しのつかないミミとあります。甘い言葉には気を付けましょう。悪いミミとして人に後ろ指を差されたいように。
① 他人に迷惑をかけないように。
② 生活習慣の乱れを直すように。
③ 自分の行動の善悪、全て家族にも波及してきます。
行動の前に一呼吸と考える。たまには家族や祖父母を思い出して帰って来てください。
健康には充分気を付けて。

親の想い

二月に入ると、特に月日の流れの速さを感じます。卒業すると親元から離れる人も多く寂しくなったり、反面自由になったり、心のゆるみや様々な誘惑について、フラフラと「寸だけ一回だけ」が取り返しのつかないミミとあります。甘い言葉には気を付けましょう。悪いミミとして人に後ろ指を差されたいように。

「読書と私」

校長 岡田 出

正直に言って、私は図書館便りに原稿を寄せるにふさわしい過去を持ち合わせていない。

あれは小学校3年生のことだった。当時神鍋にあった西気（にしき）小学校は1学年1クラスで、私の学年は男子16人で合計29人がいた。ある日、担任の先生が「読書はあなたの人生を豊かにします。皆さん、本を沢山読みましょう。1冊読んだらシールを1枚貼って下さい。」と読書競争一覧表を教室に掲示された。そのことがあってから、昼休みでも教室で本を読む人が増えた。読めば読むほど楽しいのだろう、どんどん読書家が増えた。先生の思惑通りである。しかし、アウトドア派であった私にとってそれは悪しき傾向であった。ドッジボールやソフトボールの人数が集まらない。

ある日の昼休み、教室で本を読んでいた男子2名を無理やり運動場に連れ出した。たしか、「本を読んだことにしたらいいでしょ。シールは僕が貼っておくから・・・」と言ったような記憶がある。その暴挙は担任に知れ、当然こっぴどく叱られた。以来、何となく読書が嫌いになった。

中学時代も本を読むのは授業中くらいであった。春秋は野球部、夏は陸上部、冬はスキー部に所属していて、読書とは無縁の生活であった。豊岡高校に入っても大差ない。ただ級友に読書家が多かった。彼らは語彙が豊富で話も論理的だったので、密かに劣等感を覚えていた。マ

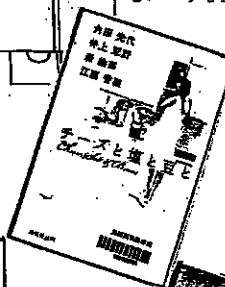
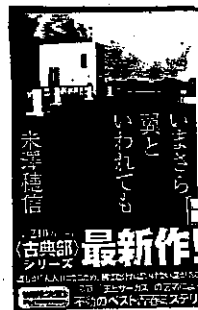
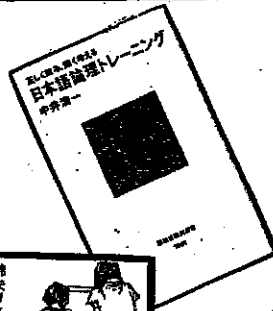
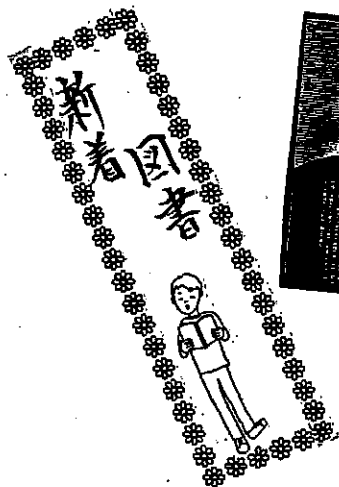


大学に入って、有り余る時間を使って乱読を始めた。「ジャンルを絞ると考えるの片寄った人間になってしまう」と根拠なく思い込んでいたので、経済、自然科学、心理、推理、哲学、恋愛小説といろいろ読んだ。専攻は理系であったが、はまったのは「歴史モノ」であった。特に日本史・中国史が面白い。印象に残っているのは柴田錬三郎著「英雄生きるべきか、死すべきか」全三巻で15回以上読み返した。

以来、歴史好きが続いている。今も、カバンの中にはいつも本（概ね歴史小説）が1冊入っている。少しの待ち時間、昼食時、寝る前の10分間などに楽しんでいる。

このように振り返ってみても、やはり私は人に誇ることのできる読書をしてはいない。ただ、活字を追いかけながら情景を想像しているときは不思議に幸せである。

今も時々小学時代の先生の言葉を思い出す。「読書はあなたの人生を豊かにします。」



読書はあなたの人生を豊かにします

読解力が危ないといふ耳にしますが、豊高生の中には読書感想文が苦手という生徒もいます。

今日の新聞でこんなことを目にしました。学校現場だけでなく、企業にも影響を及ぼしているとのことです。その理由は、若い社員は取引先のニーズを理解するのに時間がかかり、報告書も要領を得ない等々、そこで新入社員に読解力・書く力・伝える力を高める策として、読書感想文を月一冊書かせている。と、新聞に掲載されていました。みなさんも将来に向けて是非読書して下さい。

想像力が豊かになり、読んでいると楽しくなることもあります。

読解力が読解力を支える。

読解力が学力に繋がりますよ。

苦手なことでも少しずつコツコツと、卒業後、家族やお祝を頂いた方に、葉書を出してみたらどうでしょうか。